

2014-4-1 ウサギの皮膚

安全性 古田信道

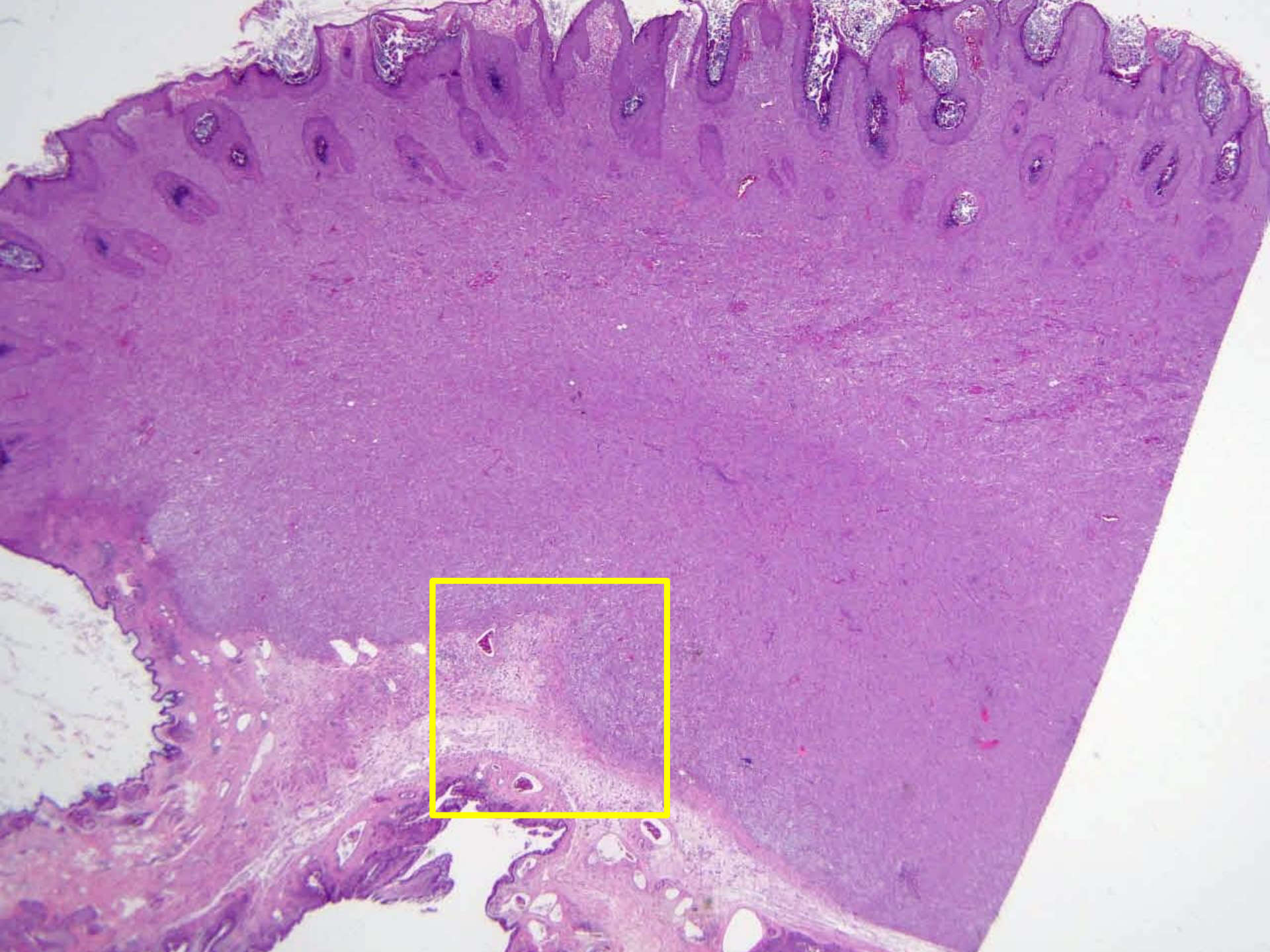
提出機関:オクラホマ州立大学 獣医健康科学センター

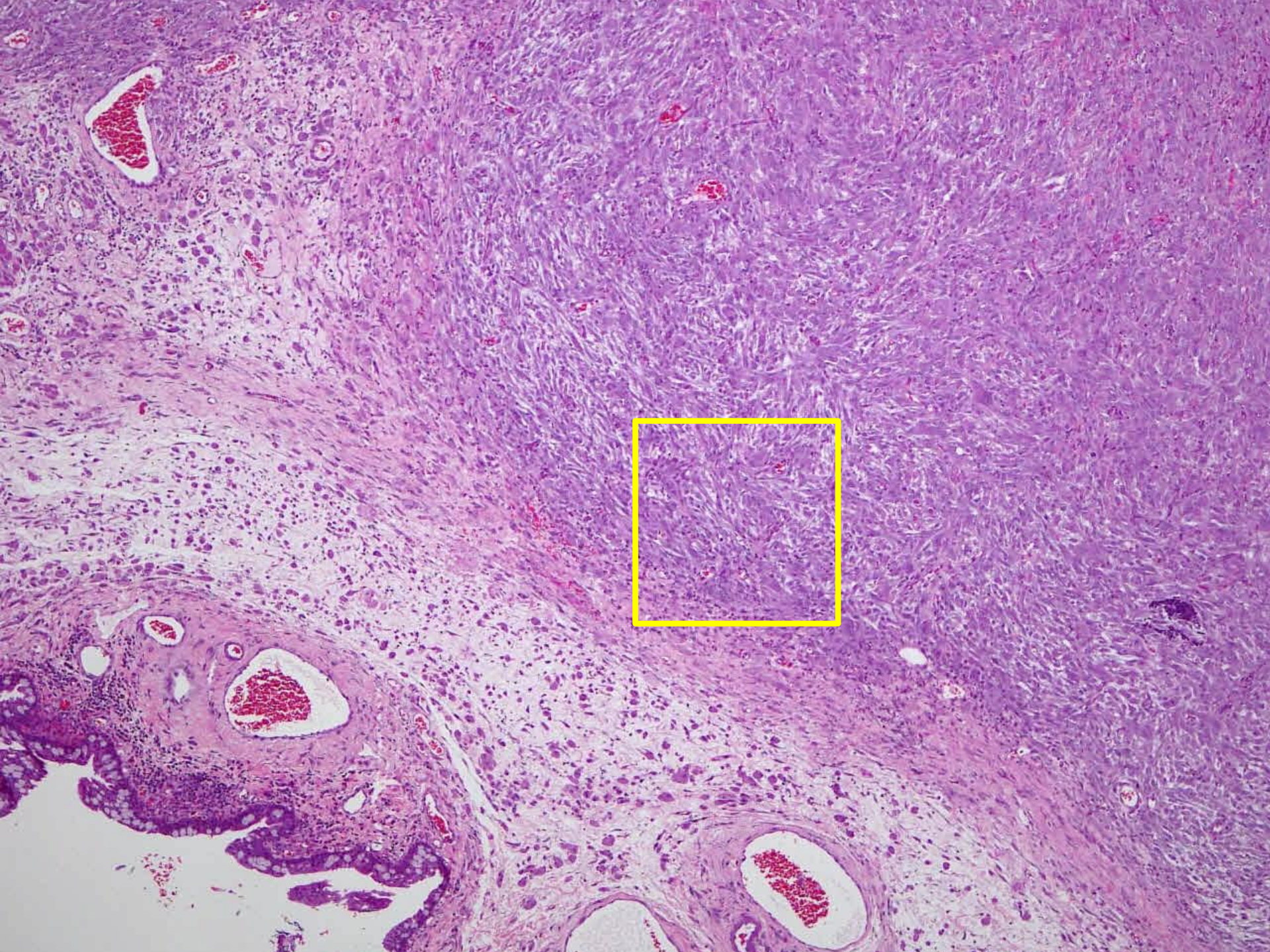
症 例:ミニチュアレックスウサギ 8歳齢 雌

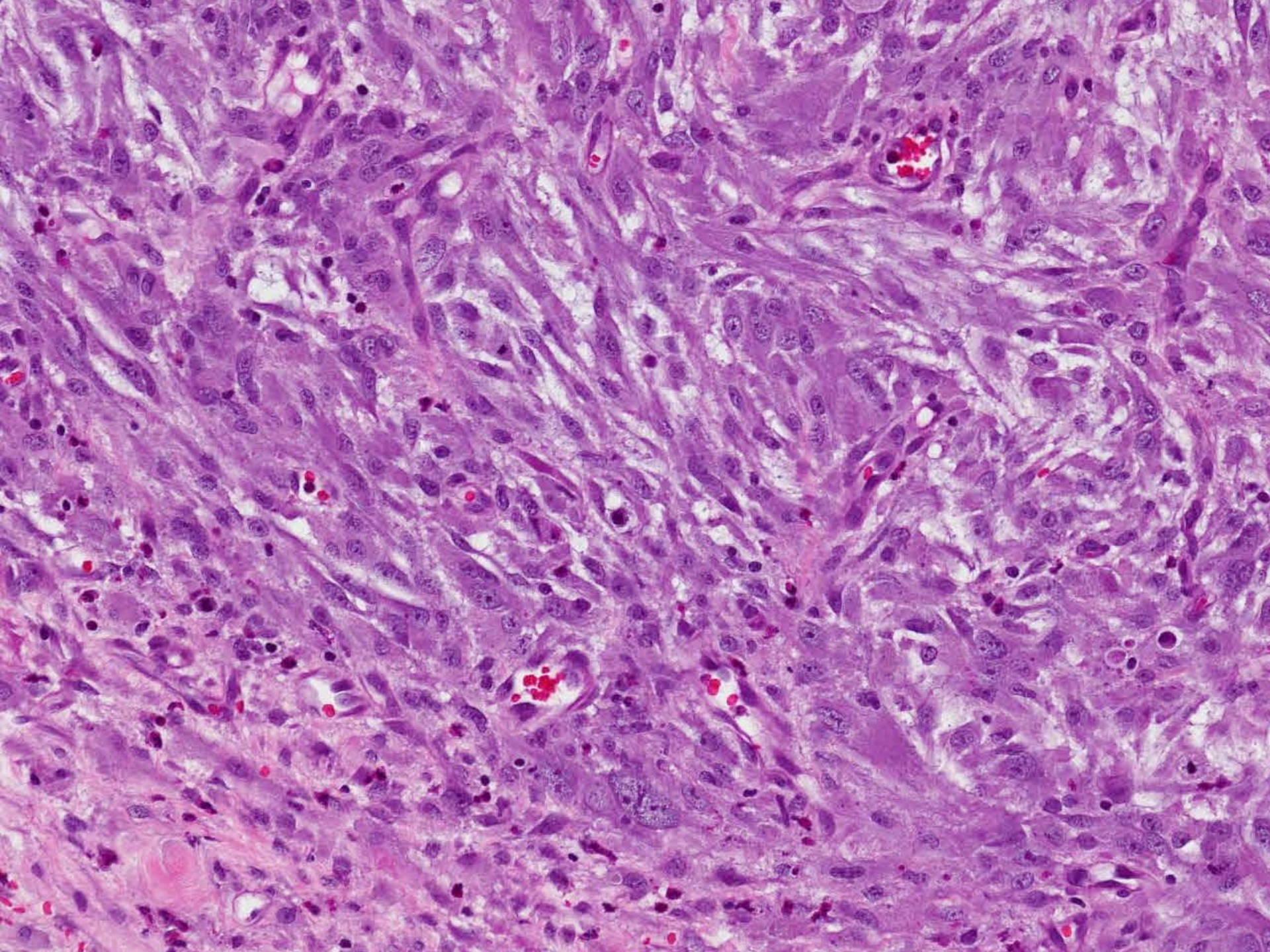
病 歴:患畜皮膚全体に比較的急性に発生した多発性の腫留。
皮膚病変2箇所をバイオプシーにて採取。
バイオプシーから2-3ヵ月後に腫留は完全に退縮。
バイオプシーから6月後の時点では健康体を維持。

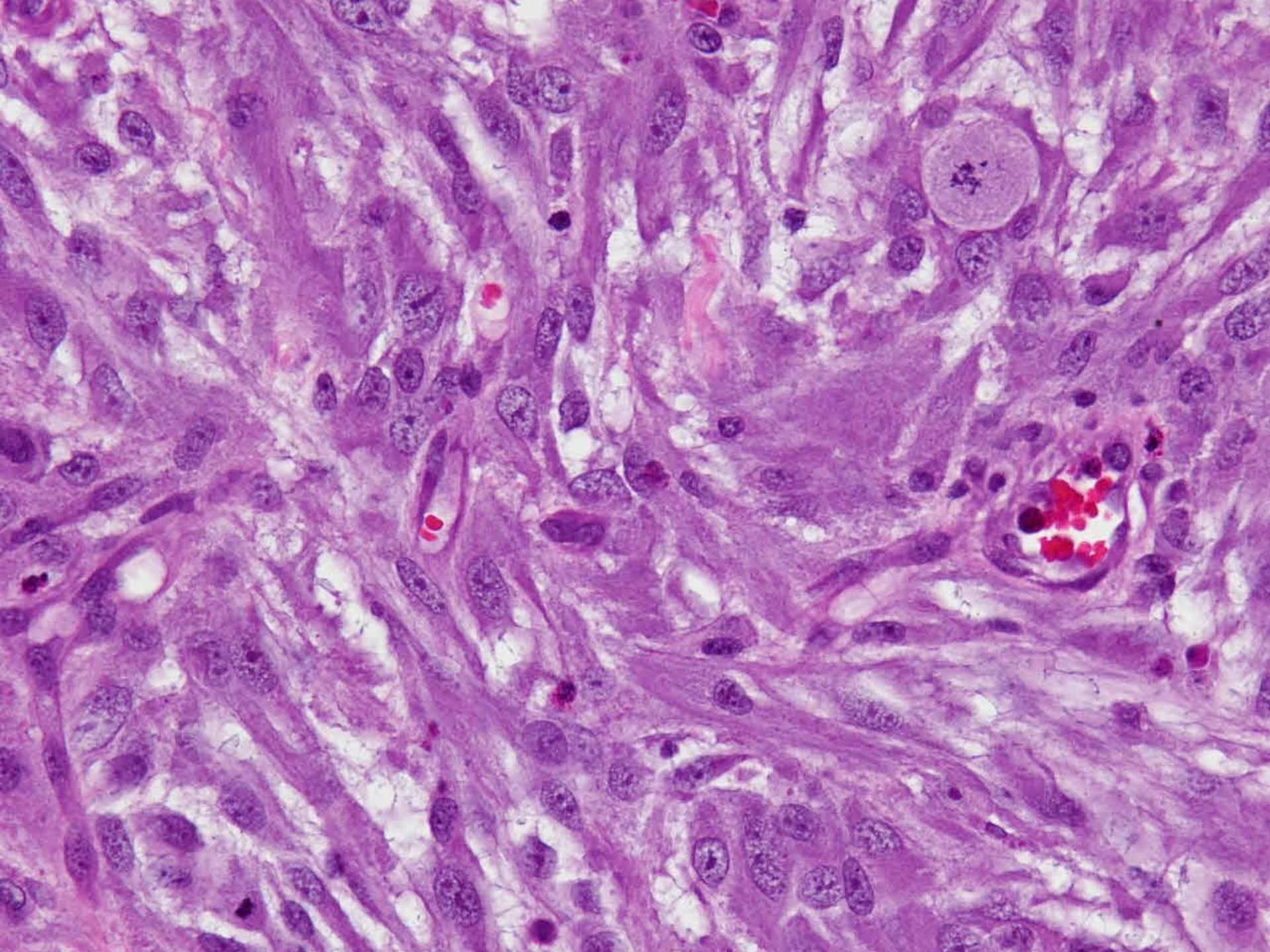
肉眼所見:正常部との境界は明瞭で、硬い実質性の均一な結節。
断面は白/褐色で、直径は2.2cmと3cm。

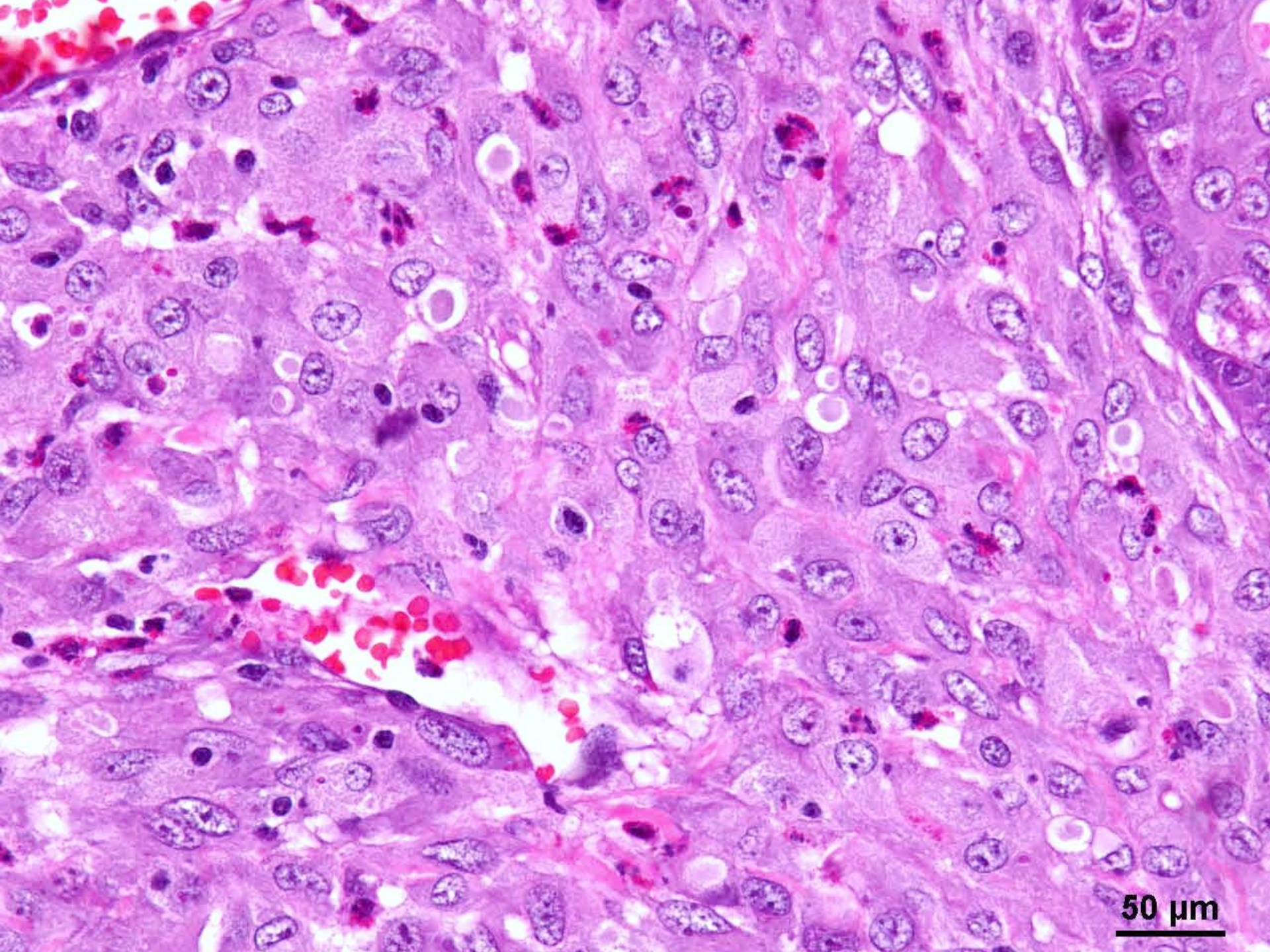
検査成績:無



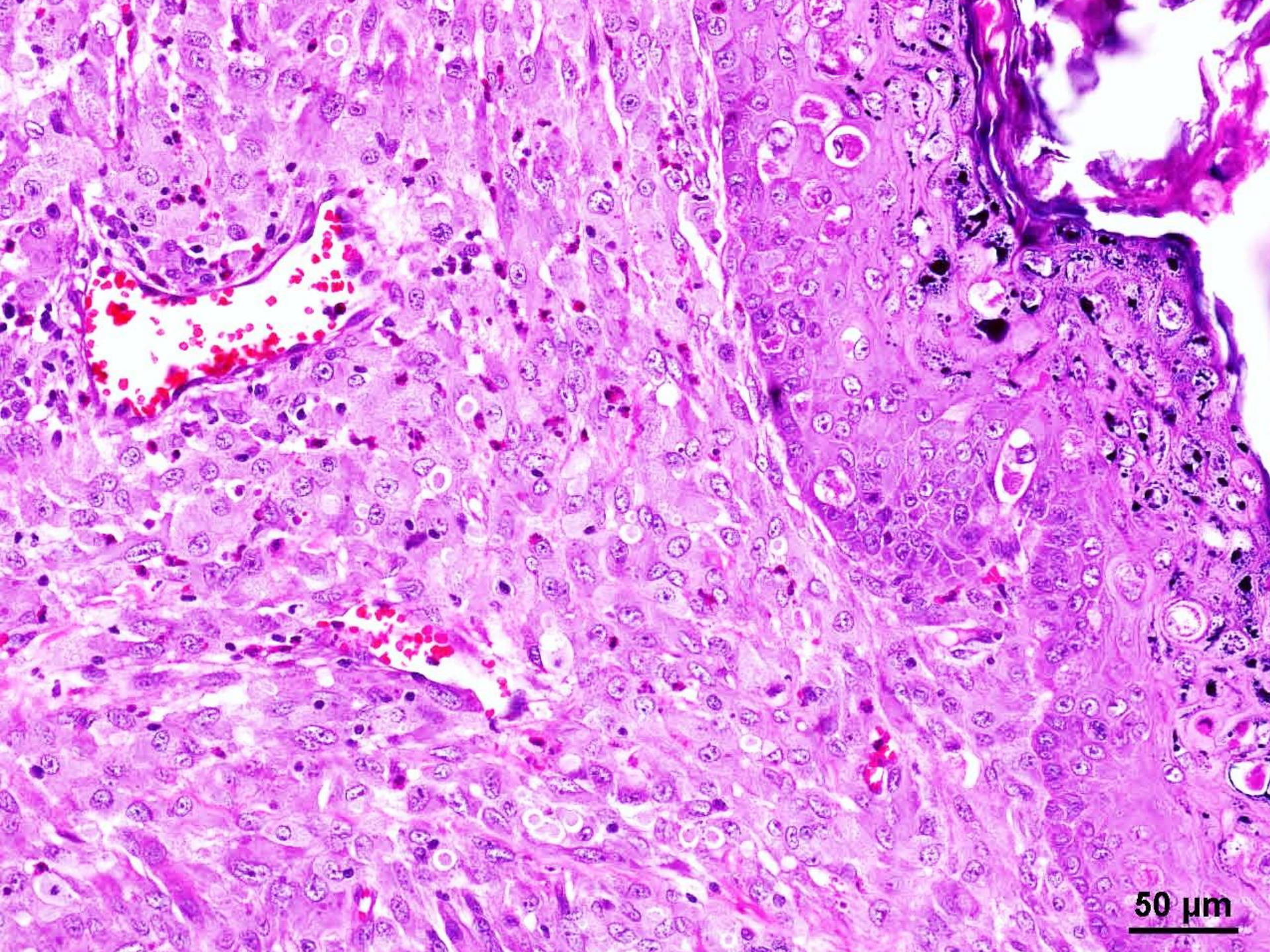








50 μ m



50 μ m

提出者の診断:

有毛部皮膚及び皮膚粘膜境界部, 複数の部位:
細胞質内封入体を伴う線維腫症。

Haired skin and mucocutaneous junctions, multiple sites : Fibromatosis with intracytoplasmic inclusion bodies.

JPCの診断:

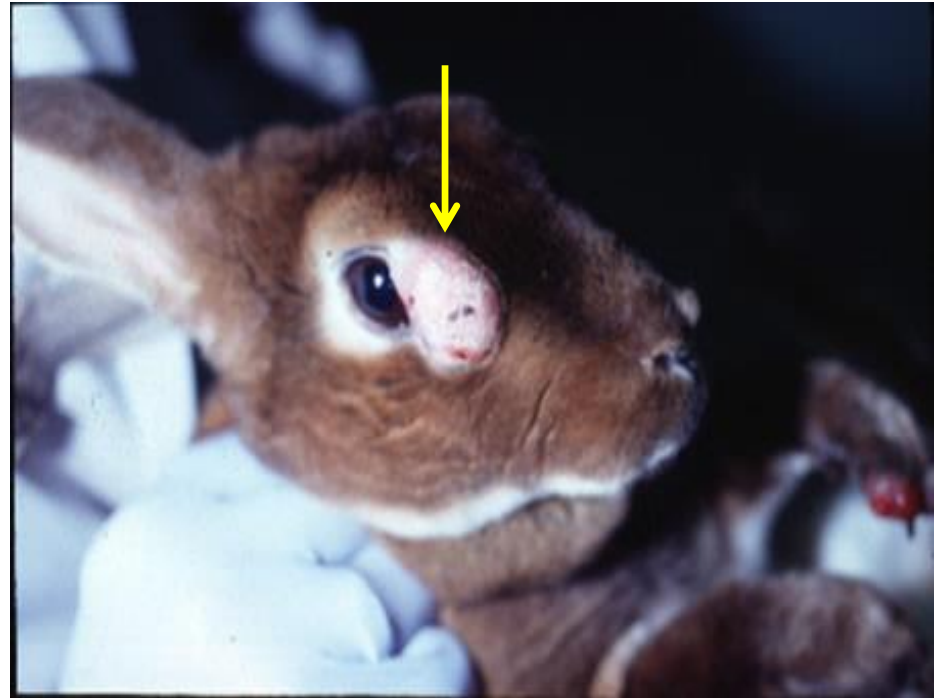
有毛部皮膚: 異型線維芽細胞増殖。

Haired skin: Atypical fibroblastic proliferation.

提出者のコメント:

ショープ線維腫ウイルス (Shope fibroma virus :SFV)

- ・ポックスウイルス科レポリポックスウイルス属ショープ線維腫ウイルス
- ・自然宿主はワタオウサギ (*Sylvilagus floridanus*)。
- ・ウサギ粘液腫症を引き起こす
Myxoma virus(MYX)に配列が類似。
→弱毒SFVはウサギ粘液腫症のワクチンとして使用される。
- ・吸血昆虫により伝播し、特に9月から11月に発生。
- ・吸血部位は急速に結節化し、7-12日で最大。
- ・好発部位は頭部・足。
- ・1-1.5ヶ月で宿主免疫により消失。
- ・新生子や幼若ウサギの場合、ウサギ粘液腫症と似た症状を示し、死亡する例も。



Ref:<http://dora.missouri.edu/rabbits/rabbit-shope-fibroma-virus/>

JPCのコメント:

- ・この症例はポックスウイルスによる細胞質封入体の特徴的な所見。

- ・診断に至った経緯
 - ① JPCはレプリポックス感染によるShope線維腫・粘液腫を「atypicla mesenchymal proliferation」と診断。
 - ②複数の文献において、Shope線維腫については線維芽細胞の増殖としている。病名がShope線維腫。
→異型線維芽細胞増殖と診断。

- ・ポックスウイルス科感染の特徴
 - ①線維芽増殖を引き起こすことは少ない。

Leporipoxvirus 属に含まれる、Shope線維腫ウイルス/リス線維腫ウイルス/粘液腫ウイルス感染において維芽細胞増殖による真皮拡張を認める。
 - ②上皮細胞における、風船様変性と壊死。
 - ③封入体の形成
 - I. A型封入体: 大型、好酸性、本症例で観察。
 - II. B型封入体 (Guarnieri bodies): 小型、好塩基性。

ウサギ粘液腫 (myxomatosis) (届出伝染病)

原因

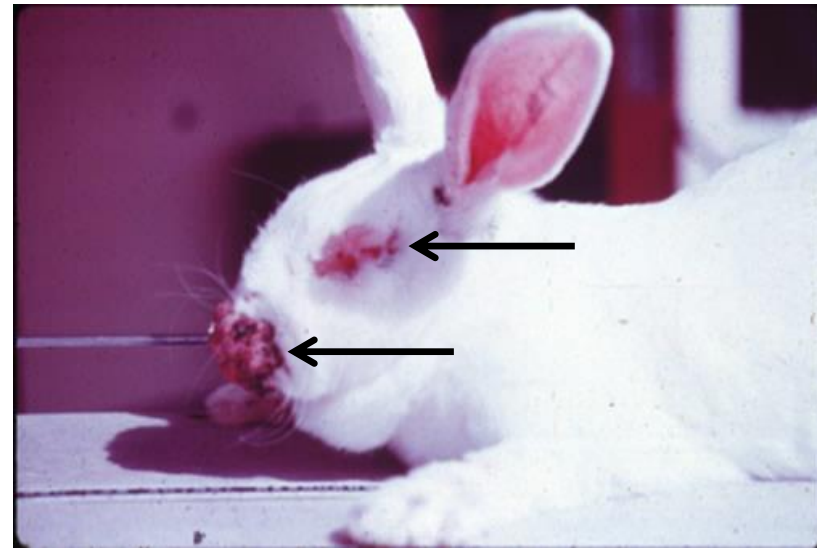
- ・ポックスウイルス科レポリポックスウイルス属 粘液腫ウイルス

疫学

- ・アナウサギ(欧州)は重篤化しやすく、ワタオウサギ(南米及び北米大陸)軽症傾向。
- ・兎間の直接接触や吸血昆虫により伝播。日本での発生は無。

臨床症状

- ・眼瞼周囲や生殖器周辺の皮下に粘液腫。
- ・膿性鼻汁の漏出、結膜炎あるいは失明、発熱、食欲低下、元気消失、細菌の二次感染による肺炎、多臓器不全が起こり、発病後2週間以内に死亡。
- ・強毒株の場合は、元気消失以外の特徴的変化を認めず発病後48時間以内に死亡する。
- ・ワタオウサギでは死亡せず、感染部位に良性の線維腫が形成されるのみである。



Ref:<http://dora.missouri.edu/rabbits/myxoma-virus/>

病理組織学的所見

- ・真皮から皮下にかけて、境界明瞭な水腫性の腫脹。
- ・粘液様物質が腫脹の主体で、腫瘍細胞が疎に散在する。
- ・腫瘍細胞の細胞質内には好酸性の封入体が認められる。

(Ref: http://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease_fact/t67.html)

その他

- ・CCL5(ケモカイン)を細胞へ前処理することで、粘液腫ウィルス感染を阻害。

→粘液腫ウィルスはCCL5と競合拮抗する。

→粘液腫ウィルスはCCL5レセプターのCCR5/CCR1/CXCR4に親和性有。

(粘液腫ウィルスとCCL5レセプターとの関連性については未解明)

(Ref: Lalani AS, et al. *Science*. 1999;286:1968-1971)